



校長室より



令和7年 6月11日

自分らしく生きる 豊かに生きる

No.10

雑考：みはまには校則はありません

みはま支援学校には、校則も生徒心得もありません。

本校に入ってくる子どもたちは、病気のため、ただでも多くの制約を受けてきた子どもたちです。中には、一定の価値観を押し付けられ理不尽を感じて不登校に至った子どもたちもいます。校則で思いや行動を禁止することは思考停止を意味します。確かに、社会生活をしていくためには最低限のルールは必要であるという考えもあるでしょう。本校の子どもたちには、いのちを大切にすること、人が嫌がることはしないことを守ってもらえたら、今は個性や多様性を認めていく時代でもあります。自分らしく生きていってほしいと思います。

子どもたちには、自分の目で見て、自分の頭で考えて判断し、自分を律する基準をつくってほしいと考えます。校則を守ることよりこちらの方がずっと難しいことかもしれません。自主性や自由をはき違えることなく、自分らしく生きること、自分が主人公になれることが本当の自由であるにとらえています。

令和5年度、生徒会の子どもたちに校則をつくるべきかと意見を求めたことがありました。子どもたちの発言で印象に残っていることは、「この学校は先生との距離が近く、そばで先生たちがアドバイスをくれる学校だから校則はいらない」という意見でした。それを聞き、本校の教職員には子どもたちを正しく導く重い責任があるのだと感じました。しっかり子どもたちのことを見て、全教職員で子どもたちに向き合う必要があると思います。本校のように小規模校であればこれができます。

本校の子どもたちは、カードゲームやボードゲーム、鬼ごっこやドッジボールなどゲームが大好きです。その際に、必ずルールの確認をしています。そんなことまでも確認するのかと驚くくらいです。みんなで楽しむためには必要なのでしょうね。この積み重ねだと思います。

全ての子どもにとって学校が安心できる楽しい場所にするために、一人一人がどうすればよいのかを考えていってくれば、校則や生徒心得は必要ではないと考えます。一人一人に必要な支援は、決して特別なものではありません。本校ではみんなを特別扱いしません。一人一人の状況を理解し、寄り添う教育をこれからも続けていきたいです。

